

中学校 技術・家庭科の内容の変遷

(標準時間数)

昭和33年告示	男子	1年	(1)設計・製図		(2)木材加工・金属加工		(3)栽培		105		
		2年	(1)設計・製図		(2)木材加工・金属加工		(3)機械		105		
		3年	(1)機械		(2)電気		(3)総合実習		105		
	女子	1年	(1)調理		(2)被服製作		(3)設計製図		(4)家庭機械・家庭工作	105	
		2年	(1)調理		(2)被服製作		(3)家庭機械・家庭工作				105
		3年	(1)調理		(2)被服製作		(3)保育		(4)家庭機械・家庭工作		105
昭和44年告示	男子	1年	A製図		B木材加工		C金属加工			105	
		2年	A木材加工		B金属加工		C機械		D電気		105
		3年	A機械		B電気		C栽培			105	
	女子	1年	A被服		B食物		C住居			105	
		2年	A被服		B食物		C家庭機械			105	
		3年	A被服		B食物		C保育		D家庭電気		105
昭和52年告示	男子	1年	A～Iの17領域から7領域以上を履修							70	
		2年	A～Eの領域から5領域以上選択					1領域以上選択		70	
		3年	A木材加工1・2 B金属加工1・2 C機械1・2 D電気1・2 E栽培					F被服～ ～I保育		105	
	女子	1年	A～Iの17領域から7領域以上を履修							70	
		2年	F～Iの領域から5領域以上選択					1領域以上選択		70	
		3年	F被服1・2・3 G食物1・2・3 H住居 I保育					A木材加工～ ～E栽培		105	
平成元年告示	1年	(必修)		(選択) 3領域以上				(必修)		70	
	2年	A木材加工		C金属加工		I被服		G家庭生活		70	
	3年	B電気		D機械 E栽培		J住居		H食物		70	
平成10年告示	1年	【技術分野】				【家庭分野】				70	
	2年	A技術とものづくり		B情報とコンピュータ		A生活の自立と衣食住		B家族と家庭生活		70	
	3年									35	
平成20年告示	1年	A材料と加工に		Bエネルギー変換に関する技術		C生物育成技術		D情報に関する技術		70	
	2年									70	
	3年									35	
平成29年告示	1年	【技術分野】				【家庭分野】				70	
	2年	A材料と加工の		B生物育成の		Cエネルギー変換の技術		D情報の技術		70	
	3年									35	

「技術・家庭科」が開設されるまでは、戦前の実業科(農業・工業・商業・水産)の4科目に家庭科が加わる形で「職業科」(昭和22年告示)が生まれ、その後、家庭科が職業科

の枠組みから外されて「職業・家庭科」(昭和26年改訂)という名称に改められました。国内経済が技術革新によつ

て成長を遂げると、科学技術教育の強化の社会的要請が高まり、一九五八(昭和33)年告示の学習指導要領に「技術・家庭科」が必修教科として新設され、一九六二(昭和37)年から授業が開始されました。

企画展 中学校 技術・家庭科のあゆみ

生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指して

創造とものづくり

まなびや

男女別カリキュラム

男子向きカリキュラムは、いわゆる「技術系列」の内容のみで構成され、木材や金属といった加工についての学習や、電気や機械についての学習が中心です。主に第二次産

業に従事する技術者を育てるような内容でした。女子向きは、いわゆる「家庭系列」の内容を中心としていますが、「技術系列」の内容も取り入れられています。設計・製図、家庭機械、家庭工作、家庭電気といった内容です。一九六二年度に始まった技術・家庭科の完全男女別カリキュラム授業は、次の改訂でも変わらず、18年間にわたって続きました。

男女相互乗り入れ

一九七七(昭和52)年改訂では、大きな変化がありました。男子が家庭領域の内容を、女子は技術領域の内容を最低1領域学習することになりました。この形態を「相互乗り入れ」のカリキュラムと呼ばれます。男子は「食物1」を女子は「木材加工1」を選べることが多かったようです。

男女同一カリキュラム

平成に入り、一九八九(平成元)年の改訂で男子と女子の履修範囲の差異の規定が消滅しました。これで、男女同一カリキュラムでの学習が始まりました。また、技術系列に

令和時代の技術・家庭科

今秋開催の東海北陸地区中学校技術・家庭科研究会福井大会は、「学びを生かし、よりよい社会を構築するための実践力の育成」が学校・家庭・地域がつながる学習活動を通して「」を研究主題に開催されます。今後も、主体的・対話的で深い学びを通して、新しい時代に求められる資質・能力を、自ら学び、自ら考えて身に付け、技術・家庭科での学びが新時代を切り開く鍵となることを願っています。

時数の大幅な減少

「情報基礎」が、家庭系列に「家庭生活」という領域が誕生しました。学校週5日制の実施に向けて、一九九八(平成10)年の改訂では、授業時数の大幅な減少に伴い、各教科ともに内容と時数が削減されました。技術・家庭科も発足時から3分の1程度となり、実習時間を十分確保することも難しくなってきました。

学校週5日制の実施に向けて、一九九八(平成10)年の改訂では、授業時数の大幅な減少に伴い、各教科ともに内容と時数が削減されました。技術・家庭科も発足時から3分の1程度となり、実習時間を十分確保することも難しくなってきました。

※詳細はHPをご覧ください

企画展関連ワークショップ

木工・機械・調理・被服体験